

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：平成 19～22 年度

課題番号：19390181

研究課題名（和文） 積極的疾患サーベイランス構築のための情報基盤整備に関する研究

研究課題名（英文） Development of IT infrastructure for active disease surveillance

研究代表者 岡本悦司（国立保健医療科学院経営科学部経営管理室長）

研究者番号：90247974

研究代表者の専門分野：医療情報学

科研費の分科・細目：7102

キーワード：レセプト，疾病サーベイランス，感染症，がん登録，オントロジー，健康危機管理，インフルエンザ

### 1. 研究計画の概要

急速にすすむレセプトオンライン化をふまえて、レセプト等の業務データより感染症のみならず花粉症のような非感染性疾患、および薬剤の有害事象等あらゆる疾患の流行状況を把握するレセプトサーベイランスシステムを構築することを最終目標とする。しかしレセプトは医療費請求書であって医療情報ではないことから、記載された傷病名等の情報はそのままでは活用できない。そこでレセプトデータより正確な有病率や発生率を把握するための情報基盤(傷病名の正確さの評価、有害事象のエンドポイント設定、傷病名や診療行為等を多軸的に関連づけたオントロジー)を構築することが本研究班の目的である。

### 2. 研究の進捗状況

本研究班の最終目標であるレセプトサーベイランス構築にはレセプトオンライン化とデータベース化が前提となる。2008 年度よりレセプトナショナルデータベースが稼働しており本研究の最終年度までには完全オンライン化が達成される見通しである。残念ながらレセプトナショナルデータベースの研究利用ルールが3年度末までには告示されなかったが、レセプト傷病名の妥当性の評価、レセプトデータを分析可能にする正規化プログラム、そして将来的に現行の csv 形式のレセプトデータを XML 化するための準備作業はほぼ完成した。最終年度においては、国および県レベルにおける実際のレセプトデータに3年度目までに構築した情報基盤

を適用しレセプトサーベイランスシステムを完成させる。

### 3. 現在までの達成度

電子レセプトデータを疾病サーベイランスシステム化するための情報基盤は 90%近く完成した。本研究班は情報基盤構築を最低目標とし、実際の国・県レベルでのシステム構築を最大目標としてきた。前述のように国データベースの研究利用が未告示なので最大目標は未達成であるが、最終年度においては最大目標を含めた 100%近い完成をめざす。

### 4. 今後の研究の推進方策

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

岡本悦司：“レセプトオンライン化はいかに決定されたか？”ヘルスサイエンス・ヘルスケア 7. 10-22 (2007)

岡本悦司：“レセプトナショナルデータベースと研究利用の可能性”公衆衛生 72. 230-235 (2008)

岡本悦司, 瀬戸口聡子：“レセプト情報によるインフルエンザ罹患直後の外傷発生状況”. 薬剤疫学 12; S68-69 (2007)

岡本悦司：“米国における医療情報の研究利用ルール”. 健康開発 13 (2) 42-49 (2008)

岡本悦司：“傷病統計と国民医療費推計に関する考察”. 社会保険旬報 2376 号 10-15 (2008)

岡本悦司:“レセプト情報によるインフルエンザ罹患直後の外傷発生状況第2報”. 薬剤疫学 13;S48~49 (2008)

岡本悦司:“レセプト情報によるインフルエンザ罹患直後の外傷発生状況第3報”. 薬剤疫学 14;S50~51 (2009)

岡本悦司:“Is oseltamivir (Tamiflu) safe?: Reexamining the Tamiflu 'ado' from Japan”. Expert Review of Pharmacoeconomics & Outcome Research 10;17-24 (2010)

岡本悦司:“Declining accuracy in disease classification of health insurance claims”. Journal of Epidemiology 20. 166-175 (2010)

[学会発表] (計7件)

岡本悦司: Safety of Oseltamivir as measured by incidence of injuries. 国際薬剤経済学会 (ISPOR) 第三回アジア太平洋大会. 2008年9月8日ソウル(韓国)

岡本悦司: レセプト点数の傷病別幾何平均, 標準偏比推計の試み. 日本衛生学会学術総会 2009年4月1日東京

谷原真一: 入院外レセプトにおける疑い病名の分布 日本衛生学会学術総会 2009年4月1日東京

岡本悦司: Accuracy of estimation of disease-specific costs in national health expenditure: An example of renal failure and dialysis. The 7th World congress of International Health Economics Association. 2009年7月15日北京

岡本悦司: 医療計画策定のためのレセプトデータによる病院間連携把握の試み. 日本医療・病院管理学会学術総会 2009年10月17日東京

谷原真一: レセプトデータベースによる麻疹受診状況の分析 日本公衆衛生学会総会. 2009年10月23日奈良

岡本悦司: Derivation of distribution functions of laboratory data among healthy adult subjects. 日本疫学会総会 2010年1月10日埼玉

[図書] (計1件)

橘とも子他. “公共機関・企業のための新型インフルエンザ対策-住民をパンデミックから守るには”(ぎょうせい 2009) 全164頁

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

「オセルタミビル服用直後の外傷頻度の増加はみられずむしろ逆に低下させる傾向がある」という研究結果は, 新型インフルエンザ流行下において原則投与禁止通知がでていた十代患者への治療決定に重要な関連があると思われたので, 健康危機管理情報の扱い規定に基づき厚労省健康危機管理調整会議への報告を2009年5月17日付けで行った。